

ヒロシマ 71年の記憶 ～心の中に平和を～

◆ 2016年10月25日(火)

● 午前9時～午前10時30分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
第5別館1号教室

● 午後1時30分～午後3時

場所／西宮聖和キャンパス
6号館614教室

◆ 講師／^{こん}近 ^{どう}藤 ^{こう}紘 ^こ子 氏
(広島原爆の語り部)

*本講演会では手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。

■講演内容

原爆のことなど記憶にない私が広島原爆の語り部として歩むのは、次の時代を担う子供たちが命を大切に、平和に生きて欲しいと願うからです。1945年8月6日、生後8ヶ月の私は爆心地から1.1キロの牧師館で被災し、家の下敷になりましたが、奇跡的に助かりました。広島は惨状を見聞して育ち、国内外から差し伸べられた多くの善意の中から学んだ体験を通して、核兵器のない平和な世界を願い、語り続けています。特に幼い頃、原爆を投下した人々を憎み続けていた私に、米軍機エノラ・ゲイ号の副操縦士との出会いは、戦争を引き起こす人間の悪に気づかせてくれました。自分の中にも多くの悪があることに気づき、彼の涙から憎むべきは戦争だとわかったからです。米国のオバマ大統領の広島訪問は、71年間、広島・長崎の多くの被爆者たちが願い、「人から人へ」と語り継がれてきた思いが、時を経て米国の人々を動かして実現できたのだと思います。「生き残った者として広島のために世界平和のために生きて欲しい」という被爆者の父母の言葉に反発し、若き日、辛い日に救いを求めた私の祈りを、神様は長い時間をかけて最善の方法で聞いて下さいました。神様にも父母にも背を向けて歩き始めたこの私をも神様はしかと捕らえ、立ち帰らせ、用いて下さいました。

■講師紹介

1944年、広島流川教会の牧師であった父、谷本清と母、谷本チサの長女として生まれる。生後8ヶ月で原爆により被災。桜美林学園高等部、アメリカのDoylestown Joint High School, Centenary College, American University等で学ぶ。被爆牧師として「原爆乙女の治療運動」や「精神的養子縁組」を手がけた父の平和を求める気持ちを引き継ぎ、核兵器や戦争のない世界を願いつつ、広島原爆の語り部として世界を舞台に長年様々な活動に従事し、その活動についてはテレビ、新聞等にも取り上げられている。

総合テーマ：

**Towards the Realization
of Human Rights**

— 人権保障の実現を目指して
(2015～2019年度)